

スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業

スポーツツーリズム需要拡大のための 官民連携協議会 報告書

2019年3月15日

株式会社JTBCコミュニケーションデザイン

■ スポーツツーリズム需要拡大のための官民連携協議会 実施概要	
・ 開催趣旨、開催日時・実施内容	3
・ 官民連携協議会委員、オブザーバー一覧	4
■ 【論点】議事要旨	
・ 各企業のスポーツツーリズムの取組	6
・ 「アウトドアスポーツツーリズム」、「武道ツーリズム」の定義	10
■ 【論点】議事要旨	
・ 「アウトドアスポーツツーリズム」の推進	12
・ 「武道ツーリズム」の推進	14
・ 官民連携協議会で協働して取り組む実験的取組	16
・ 2019年度以降のスポーツ庁の取組	18

【開催趣旨】

スポーツの参加や観戦を目的として地域を訪れたり、地域資源とスポーツが融合した観光を楽しむツーリズムスタイルであるスポーツツーリズムは、地域への交流人口の拡大をもたらすことに加え、出発前のスポーツ用品やファッション等の購入、旅先でのイベント参加・観戦など、通常のツーリズム以上の関連消費が期待できるため、スポーツツーリズムの需要拡大は「交流人口拡大による地域活性化」、「幅広いスポーツツーリズム関連産業の活性化」の両方に大きく寄与するものと考えられる。

2017年度は本協議会での議論を踏まえ、「スポーツツーリズム需要拡大戦略」（2018年3月）を決定した。2018年度は、同戦略に基づき、重要テーマである「アウトドアスポーツツーリズム」と「武道ツーリズム」を推進するための協議を行うとともに、官民連携プロモーションの実施や2019年度以降の展開の検討にあたっての礎を築くことを目的に開催した。

【開催日時・実施内容】

●第1回協議会：2018年9月28日（金）

- ・ 運営規則等について
- ・ 委員紹介・協議会開催趣旨について
- ・ 各企業のスポーツツーリズムの取組の現状報告
- ・ 「アウトドアスポーツツーリズム」、「武道ツーリズム」の定義について
- ・ 映像コンテンツ制作の進捗状況について
- ・ 自由討議

●第2回協議会：2018年11月26日（月）

- ・ 「アウトドアスポーツツーリズム」の推進について（実践者からの報告）
- ・ 「スポーツツーリズム」に関するスポーツ庁制作映像の紹介と今後の展開について
- ・ 官民連携協議会で協働して取り組む実験的取り組みについて
- ・ 自由討議

●第3回協議会：2019年1月29日（火）

- ・ 「武道ツーリズム」の推進について（実践者からの報告）
- ・ 2019年以降のスポーツ庁の取組について
- ・ 官民連携協議会で協働して取り組む実験的取り組みについての進捗状況
- ・ スポーツ庁制作動画プロモーションの進捗状況
- ・ 自由討議

＜参加委員企業＞

イオンモール株式会社
一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン
グーグル合同会社
クロススポーツマーケティング株式会社
株式会社ジェイティービー
株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング
株式会社SUBARU
全日本空輸株式会社
日本航空株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
フェイスブックジャパン株式会社
株式会社プリンスホテル
株式会社モンベル
株式会社リクルートライフスタイル

以上14社

・座長

早稲田大学スポーツ科学学術院 原田宗彦教授

・オブザーバー

株式会社榊出版社
株式会社スポーツニッポン新聞社
株式会社山と溪谷社
一般社団法人日本スノースポーツ&リゾート協議会
一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構
経済産業省
環境省
文化庁
観光庁
株式会社読売新聞社
全国地方新聞連合

■【論点】議事要旨

各企業のスポーツツーリズムの取組
「アウトドアスポーツツーリズム」、「武道ツーリズム」の定義

各企業のスポーツツーリズムの取組

委員として参加頂いている14の企業が現状実施しているスポーツツーリズム関連の取組について、発表頂いた。
※株式会社フェイスブックは未発表。グーグル合同会社は非公開。

東日本旅客鉄道株式会社

- 地域スポーツイベントへの支援 協賛・後援、臨時列車等による地域への誘客促進。
- サイクルツーリズムの推進 自治体、地域と連携した地域活性化の推進、送客促進。
- バasketボールを軸とした地域づくり 秋田駅を中心としたコンパクトシティでの取組。
- ウィンタースポーツによるインバウンド誘客 GALA湯沢におけるレッスンの多言語対応。

日本航空株式会社

- サイクリング 受託手荷物として自動車を受託できる輸行箱を開発・運用し、自転車愛好家に安心して、空路を利用してもらうことにより、様々な地域への送客を図ることで交流人口の拡大に努める。
- ラグビー 2019年に日本でワールドカップが開催されることもあり、日本代表オフィシャルエアラインとして大会機運を高め、国内・国際ツーリズム需要拡大につなげる。
- 剣道 外国人観光客を日本に呼び込む手段の一つとして、剣道ツーリズムを推進し、大学や自治体と協力して新しいツーリズムの流れを作る。

全日本空輸株式会社

- 2017年度は17か所で「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」を開催し、参加者は3,000名を超えた。2018年度も継続実施、参加者への会員組織化も開始。
- 旅先で地元の人とのウォーキングを通じて、その土地を感じる「ふれあいウォーク」を実施。2017年に実施したアルザスでの「ふれあいウォーク」がツアーグランプリの大賞である「国土交通大臣賞」を受賞。2018年は5月にドイツ・バイエルン、11月に中国・廈門で実施。
- 2018年10月には台湾のお客様を招いて宮城県松島で「ふれあいウォーク」を開催、2019年3月には台湾・日月潭でも開催し、ウォーキングを通じた日本と海外、双方の観光促進と相互交流のきっかけづくりを目指す。

株式会社JTB

- ジャパンタイムズ社と協業しラグビーワールドカップ2019™日本大会における交流人口の増加を取組中。
- JTBヘルスケアの事業ブランドを立ち上げスポーツ×健康のヘルスツーリズムプログラムを地域とともに開発している。
- 今年度も昨年から引き続き、自社サイトを通じ、国内外への情報発信やエントリー促進を図り、昨年より半期で大幅に会員が増加。参加者へのPRはメルマガ・FB・EXPOを活用している。
- 弊社取扱修学旅行（中学生）行程内において体験プログラムを実施。今後も法人（学校法人含む）を中心に取組を強化。

株式会社リクルートライフスタイル

- 若年層需要創出プロジェクト「マジ☆部」を継続中（2011年11月～）。
- 2017年度で合計119万人がマジ部に会員登録。
【マジ部19歳会員の人口シェア】
会員総数:17.8万人/人口:121.5万人
（人口シェア：15%が会員）
「全国19歳」の6.8人に1人、
「関東19歳」の4.6人に1人が会員
- 2018年3月よりマリンアクティビティ需要創出「海マジ!」を新たにスタート。

株式会社プリンスホテル

- 小学生以下のリフト料金無料施策を継続実施。前年の数字は下回ったものの、こども来場人員は実施前と比較して178%。
- 孀恋ヒルクライム（1,002名）、GREAT EARTH 雫石（394名）を実施。GREAT EARTH函館を9/30に実施。
- インバウンドはアジア・豪州を中心に強化。本年より中国ウインタースポーツエキスポへ初出展。インバウンド予約状況好調。（AUS前年同期比 160%）

株式会社SUBARU

- 2018年7月に新中期経営ビジョン「STEP」を策定。ありたい姿として「モノを作る会社から笑顔を作る会社へ」を掲げポリシーは不変。
- 日本では「SUBARU ACTIVE LIFE SQUARE」と「SUBARU WEB COMMUNITY」で様々なイベントを企画し、実施している。

株式会社モンベル

- 「SEA TO SUMMIT」は今年度は全国12会場で開催予定。パラチャレンジ部門を新設し、障がい者など幅広い方が参加できるルールを設けた。
- スローでエコな旅「ジャパンエコトラック」は、新ルートとして三重、宮城県南浜街道が追加となり16エリアに広がっている。ジャパンエコトラック阿蘇にて、ルートを利用したイベント「ライドイン阿蘇」を3月と12月開催。ジャパンエコトラックいしかわ里山里海ルートではプロモーションビデオを作成やスタンプラリーを実施するなどPR活動を行っている。
- 「ライドイン阿蘇」ではJALが発表された自転車輸送用 受託手荷物専用ボックス「SBCON」を活用したツアーを検討している。

株式会社スノーピーク

- 「野遊び日本」というキーワードを元に、日本各地にアウトドア事業を展開している。また、その取り組みについては、世界規模での展開を考えている。ゆくゆくは、日本発の「野遊び」をグローバル展開をし、世界中が幸せになるよう、事業展開を行っている。
- 「野遊び日本」から「グローバルトップアスリートジャパン」への昇華を目指している。

イオンモール株式会社

- 「多世代交流型健康文化の発信拠点づくり」の継続推進。
 - ①全国147施設でウォーキングコース、92施設でヘルステーション設定、自立的活動のための「見える化」を実施。
 - ②グループ内企業などと連携、ウォーキングレッスンプログラムの実施。
 - ③FUN+WALK PROJECTへの参画
⇒継続可能な環境の提供、健康維持増進に有益な商品や情報の提供
- 「スポーツ・文化の発信拠点づくり」
 - ①ストリートスポーツプログラムの実施
 - ②海外モールでのイベントコンテンツ展開
⇒プロの技を観る機会の提供、
誰でも、いつでも、どこでも始められる
スポーツコンテンツ体験機会の提供

クロススポーツマーケティング株式会社

- 「スパルタンレース」を2017年に日本で初開催。2018年は「スパルタンレース」を3回開催予定。これまでの4回の開催で世界70か国以上から約20,000人の参加があった。
- 3人制バスケットボールのプロリーグ「3x3.EXE PREMIER」は2017年の18チームから、2018年は倍の36チームが全国各地より参戦。年間で約800,000人の観戦を見込んでいる。世界初の女子カテゴリも開幕し、成長を続けている。
- 宇都宮市にて「3x3」のクラブチーム世界一決定戦に向けた予選大会である「FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters 2018」を開催。同時に「FIBA 3x3 U23 Nations League」、「U12 3x3. EXE GAME in Utsunomiya」、「3x3. EXE PREMIER 女子カテゴリ」の合計4大会を同時開催し、2日間で国内外から約67,000人が訪れ、宇都宮市に457百万円の経済効果をもたらした。

一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン

- イベント事業としての「ツール・ド・ニッポン」、29年度は16地域18大会を開催。参加人数14,400人、総宿泊数5,300泊、経済波及効果は14億6千万円。引き続き開催地を増やしなが、各地域での施策の深堀も行う。
- 「全国サイクルツーリズム連携推進協議会」地方自治体など現在22団体が加盟。加盟地域を増やしなが各施策を継続 民間企業との連携も仕組化したい。
- マーケティング調査「サイクリスト国勢調査2018」実施中。サイクリストのセグメンテーションごとのボリューム・行動様式等を知り地域施策に活かす。
- サイクリングガイド養成事業
今年度：3か所（茨城県、千葉県銚子市、石川県加賀市）で30～40名養成（予定）
⇒養成地域を増やしなが、養成後の実業への出口も模索していく。
- インバウンドツアー開発。30年度：複数個所にてイベント連動型パックツアーを造成、販売9月の富士山ロングライドへは6か国17名がツアー参加。イベント連動ツアー造成の横展開。日常募集型ツアーへのチャレンジ。
- 観光サイクリングコース専用のスマホアプリ「ツール・ド」を開発。
・30年度 アプリ版公開（10月予定・年度中に200～300コース程度掲載予定）
⇒随時コースを拡充していく。

委員として参加頂いている14の企業に対し、「アウトドアスポーツツーリズム」、「武道ツーリズム」の定義について、スポーツ庁より確認を行った。

世界に誇る日本の自然資源を活用した アウトドアスポーツツーリズム

日本各地に存在する海・山・川・湖等の自然環境下で、その地域ならではの景観・環境・文化に親しみながら体験が可能な、身体活動を伴うアクティビティを楽しむツーリズム

- 種別：「する」スポーツ
- フィールド：海・山・川・湖等の自然環境下や、自然景観が楽しめる道・、アウトドアパーク等
- スポーツアクティビティ種目
 - ・海：マリン・ビーチスポーツ（海水浴、ダイビング、サーフィン、SUP、シーカヤック等）
 - ・山：登山、トレッキング・ハイキング、スノースポーツ、トレイルラン等
 - ・川・湖：カヤック、ラフティング、キャニオニング、スポーツフィッシング等
 - ・その他：サイクリング、ウォーキング等
- ターゲット：日本国内及び外国人旅行者
- 重点項目とした意図
 - ・「スノースポーツ」、「登山・ハイキング・トレッキング」、「ウォーキング」、「サイクリング」をはじめ、国内外問わず実施意向が高い。
 - ・最高の環境が地方部にあるため、地方部への誘客に繋がる。
 - ・雪質や里山等、日本特有の自然資源・環境には海外からも高い関心が寄せられている。
 - ・体力や年齢に関わらず、誰もが実施しやすいスポーツジャンルであるため、国内のスポーツ実施率の向上に寄与できる。

世界の関心が高い日本発祥のスポーツ「武道」を活かした 武道ツーリズム

**武道や武術の見学、観戦、実技体験、施設見学等、
発祥の地である日本でしか体験できない、スポーツと文化（伝統文化・精神文化）が融合した、希少性の高いツーリズム。**

●種別：「する（体験）」・「みる（見学・観戦）」スポーツ

●フィールド：武道館、講道館、国技館等の聖地、各地の道場（県・市町村の施設、大学施設、町道場等）、見学・体験施設（沖縄空手会館等、忍者ミュージアム等）

●体験内容

- ・聖地：試合・演武等の観戦、施設見学
- ・各地の道場：練習見学、実技体験、師範等との交流
- ・見学・体験施設：施設見学、プチ体験、歴史・文化の学習等

●ターゲット：外国人旅行者

●重点項目とした意図

- ・「武道（柔道・空手・剣道など）」、「大相撲」は各国で「みるスポーツ」としての意向が高い。
- ・武道（柔道・空手等）は海外でも愛好者が多く、受入体制やコンテンツを整備することで、海外の愛好者・日本文化関心層に対し、発祥地である日本への関心・訪日意欲を喚起できる。
- ・スポーツ庁は2016年より文化庁、観光庁と連携し、スポーツと日本の文化芸術資源を融合させた「スポーツ文化ツーリズム」を推進しており、武道ツーリズムはその一環として有力なツールになり得る。

前記の武道ツーリズムに該当するコンテンツは、まだ整備・提供されているものは少なく、これから各種団体と連携して開発していくものであるが、その性質から以下の2つの方向性に大別できる。

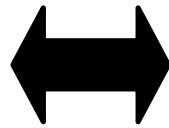
武 道

- ・心技体の修練・修行を伴う。
- ・競技性が高く、技能による勝敗を競う大会等がある。

（例）柔道、剣道、空手、弓道等

卓越した技能や修練・修行を伴う
精神世界に触れる伝統的スポーツ

- ・聖地における試合・演武等の観戦や施設見学
- ・各地の道場における練習見学、実技体験、師範等との交流 等



（例）体験型武道

着地型商品

B U D O

- ・伝統に基づき、「武道」よりも広範な領域に及ぶ。
- ・文化的側面が強く、エンターテインメント性、レクリエーション性を備えている。

（例）武芸（流鏝馬・日本泳法等）、忍者、スポーツチャンバラ 等

武道から波及した文化や伝統的
要素を楽しむスポーツ

- ・全国の見学・体験施設における施設見学、プチ体験、歴史・文化の学習等

卓越性・精神性の高い「武道」、比較的エントリー層にも楽しみやすい「BUDO」を両輪で推進することで、双方への関心喚起を図り、間口の広い日本独自のツーリズムを創出する。

■【論点】議事要旨

・「アウトドアスポーツツーリズム」、「武道ツーリズム」の推進
(徳島県三好市、株式会社美ら地球、沖縄県、山形県村山市)

- ・官民連携協議会で協働して取り組む実験的取組
 - ・2019年度以降のスポーツ庁の取組

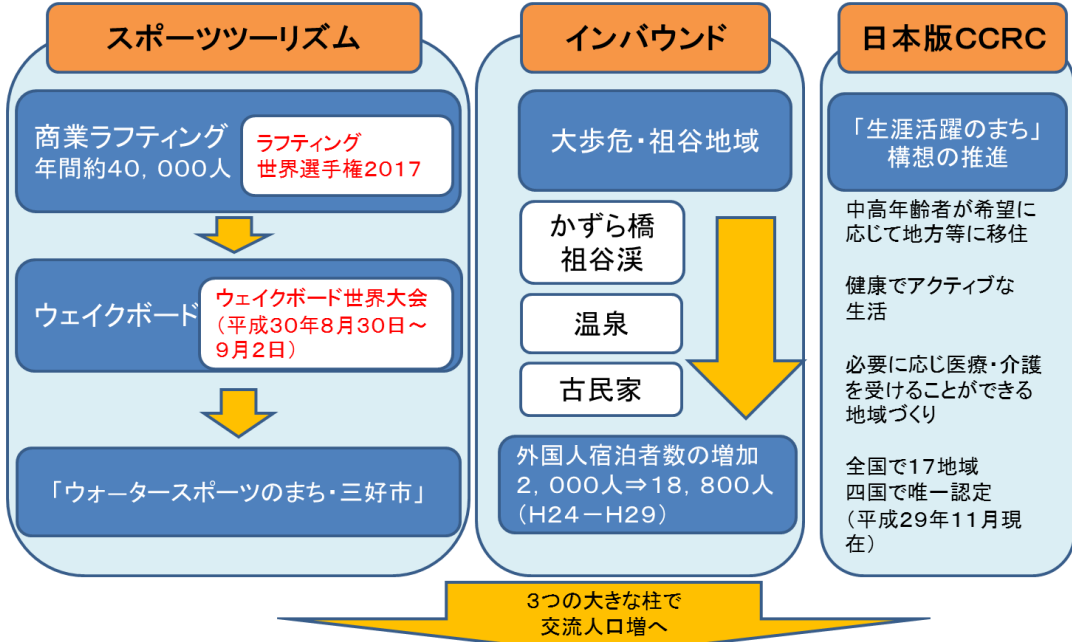
「アウトドアスポーツツーリズム」の推進

徳島県三好市、株式会社美ら地球より、アウトドアスポーツツーリズムの成功事例の発表があり、参加している委員に対して、共有を行った。

徳島県三好市

徳島県三好市としては、地方創生の方法として、観光資源を活用し、ラフティングの世界選手権の誘致や、インバウンド向けコンテンツの開発を行っている。

三好市の地方創生の戦略



「住んでよし、訪れてよし 三好市」の実現へ

今後の方向性について

1 「ウォータースポーツのまち・三好市」の標榜

- ①「地域スポーツコミッション」の設置による、持続可能なまちづくりの推進
- ②「水の運動会」などのスポーツ大会・イベントの開催により市民らが水に親しむ機会の創出
- ③子どもからトップアスリートまでが集う「吉野川ブランド」の実現(継続的な交流、市民の誇り)

2 「ラフティング×チームビルディング」

- ①トライアルツアーの実施による企業等向け研修プログラムの開発(通年型、合宿等)
- ②静水面ラフティングを活用した修学旅行の受入れ(通年型)
- ③「ウォータースポーツのまち・三好市」をアピールするアウトリーチ事業(学校プールの有効活用)

3 ウォータースポーツ若手競技者の育成支援

- ①2つの世界選手権を通じた若手競技者の継続的な育成(TRAKT、イケダコイレブン)
- ②ふるさと納税による、若手競技者の育成支援事業
- ③民間を主体にしたクラウドファンディング等、新たな資金確保

4 ラフティング(アウトドア)客増への取り組み

- ①国内外プロモーションの強化
- ②「働く×暮らす」を組み合わせた新たな働き方の提案(企業ニーズの掘り起し)
- ③地場産業としてのアウトドア発展に向けた意見調整の場の創出

5 関西ワールド・マスターズゲームズ2021

- ①オープン競技の開催(ラフティング、タッチラグビー)

株式会社美ら地球

株式会社美ら地球は、岐阜県飛騨古川を起点とし、その土地の日常体験するプログラムを開発。インバウンド向けコンテンツとして、海外からの集客が伸びている。

(株)美ら地球 CEO

山田 拓

ド田舎の小さな町に外国人を呼び込むキッカケとなる、サイクリングというひとつのスポーツ

- 「暮らしを旅する」をコンセプトとした自転車ツアーに 70 カ国以上から年間 4,000 人以上の外国人が参加
- その大半は、飛騨高山に2泊以上ステイする、欧米豪を中心とした個人旅行形態の外国人旅行者
- 伸び続ける外国人比率、2018 年には、その比率は 85%までに
- 顧客満足度は 99%超。サイクリングでタダの景色が日本旅行のハイライトに

自転車という地域に優しいツールが、住民と外国人のふれあいの起爆剤に

- 「ワシらは居ながらにして海外旅行ができるでな〜」
- エコツーリズムをベースに、生み出された4つの happy
- 新たに生まれた5つめの happy とは
- 70 歳を超えた牛飼いが英語弁論大会で入賞！

産業であり、業であるべきはずのツーリズム

- スポーツツーリズムは持続可能か？
- 日本と海外のスポーツイベント事情

ツーリズム後進国日本。観光立国の水面下で進む現実

- 西洋のスポーツ、日本の体育
- 遊びたくなるキッカケづくり。それは文化を創るというコト
- スポーツツーリズムの主要顧客は誰か？
- 多様な自然の宝庫ニッポン。誰がどう遊ぶのか？ 誰がどう稼ぐのか？

委員からの質疑

・日本のどこにでもある原風景を外国人がたくさん来て、喜んでるのは気づきになった。今回の取り組みをほかの地域が行おうとした際に、集客力がある観光地との距離間はどれくらい重要なのか、既にお客様が来ている所との距離間は必要なのか。

⇒観光地との距離間は重要。世界の観光地の距離間はとても遠いが、我々の場合は岐阜高山まで電車で15分ということで、特に外国人旅行客にとっては非常に近い感覚。また、自転車でベースの地点を軸に、半日とかではなく3～5日間くらいの滞在モデルを作れるかどうか重要。そういった意味では、日本中の地方部で、このスキームの実現は可能と考える。

・サイクリングガイドについて、ガイドのなり手が少なかったり、出口の作り方が難しい。サイクリングガイドの育成や候補者の募集どのように行っているのか。

⇒ガイドの育成については、これまで20名程度在籍していた中で、ガイド経験があるのは1名のみ。それ以外は、自社の育成カリキュラムを経て、高い満足度を維持できている。

・取組についての視察希望が多いと思うが、横展開の事例があるのか。

⇒来年の春以降展開していきたいというのが、2、3件ある。まだ情報発信の途上段階にあり、まだまだこれからだという感じがあるので、今後営業活動などを行っていく予定。

・リスクマネジメントの件について、新しい取り組みほど事業者の責任になってしまうようなことがある。海外で同様のことを行うと、自己責任であることが多い。そういった点において、実際の改善策はあるのか、また工夫をしているのかを知りたい。

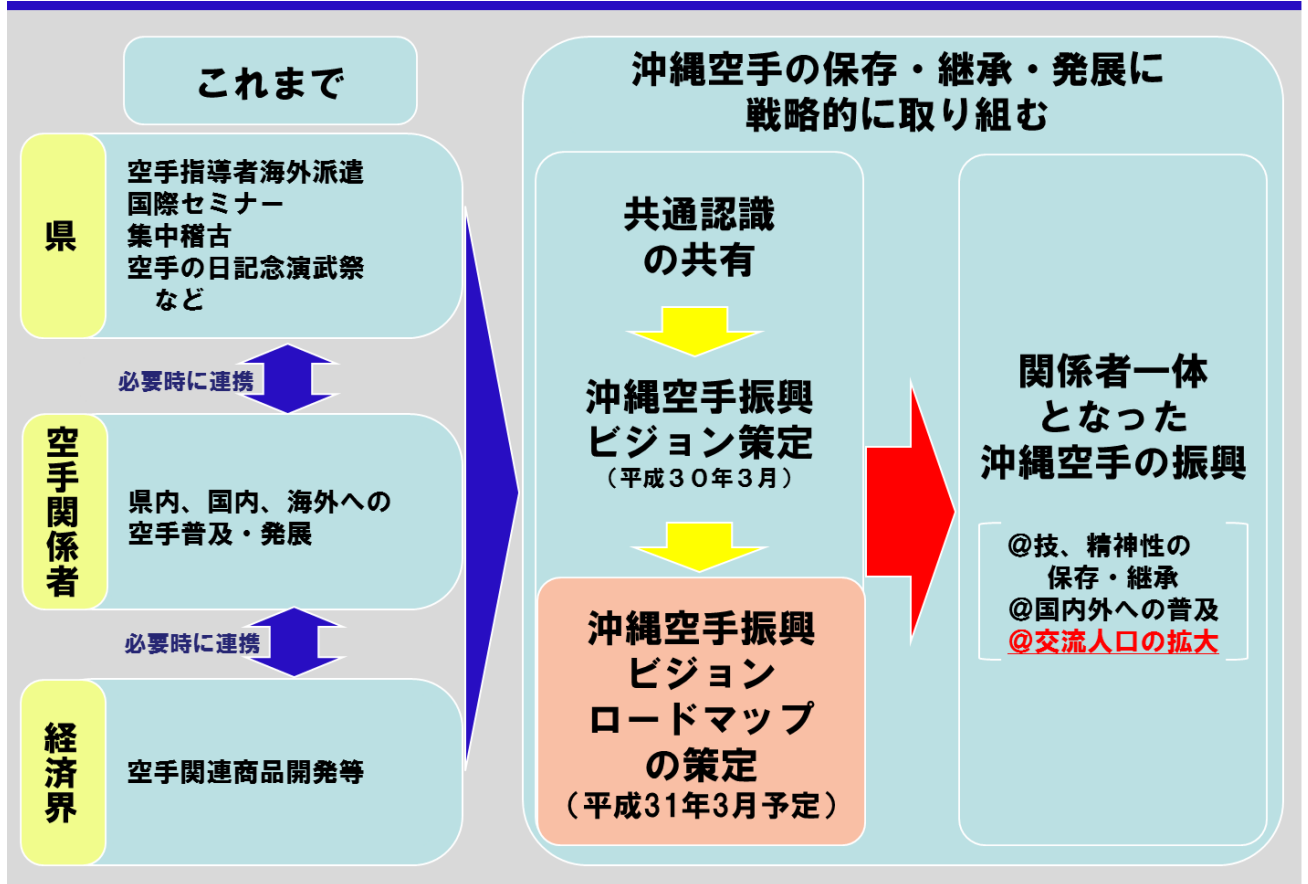
⇒基本的にはリスクレベルを下げられるところを下げるということを行っている。もしリスクレベルを上げたアクティビティをしようと思ったら、リスクマネジメント人材の確保も大変になってしまうというジレンマの中で事業をやっている。

「武道ツーリズム」の推進

沖縄県、山形県村山市より、武道ツーリズムの成功事例の発表があり、参加している委員に対して、共有を行った。

沖縄県

沖縄県は、その起源を持つ空手の保存、継承、発展を念頭に、国内外の普及を目指し、沖縄県での交流人口拡大に取り組んでいる。



「武道ツーリズム」の推進

山形県村山市

山形県村山市は、交流人口増加に向けて、山形DMOとの協業にて、居合道体験プログラムを開発。インバウンドのお客様を軸に訪問客が増加している。

居合道体験プログラムの販売展開イメージ



おすすめ 居合抜刀術サムライ体験

夢想神伝流「初発刀」を習い、試斬を体験する本格プラン

12,000円/人税別 (1~2名の場合は36,000円で体験可能です)

居合神社参拝 居合道演武 試斬デモ 居合の型体験 試斬体験

本物の刀で畳筒を斬る「試斬体験」ができるおすすめプランです。居合の演武と解説、抜刀試斬のデモを見学し、基本の型である「初発刀(しょはつとう)」を体験します。真剣を持って実際に斬る体験は一生の思い出になります。

- 人数：3～16名 (1~2名の場合は36,000円で体験可能です)
- 体験時間：2時間 [10:00～/13:30～]
- ※上記以外の開始時間をご相談ください
- 料金に含まれるもの：指導料、道着・模造刀使用料、会場使用料、試斬畳筒代
- 服装：インナーやTシャツ等を着用ください
- その他：畳筒の試斬追加は1本につき3,500円になります



居合抜刀術プライベート修行

居合の聖地で本格的なサムライ修行ができるプラン

30,000円/人税別 (1名の場合は60,000円で体験可能です)

居合神社参拝 刀礼講座 抜刀術演武 居合体験 試斬体験 認定証授与

外国人におすすめのプライベート修行です。居合神社に参拝し、抜刀試斬の華麗な演武を見学します。日本刀の扱い方や精神性を学び、居合道の型を習得し、真剣での試斬体験で締めくくります。最後に認定証を授与いたします。

- 人数：2～10名 (1名の場合は60,000円で体験可能です)
- 体験時間：5時間(昼食込み) [10:00～]
- ※上記以外の開始時間をご相談ください
- 料金に含まれるもの：指導料、道着・模造刀使用料、会場使用料、試斬畳筒代2本分、昼食代、認定証書代
- 服装：インナーやTシャツ等を着用ください
- その他：昼食の内容はご予約時にお問合せください



福島県いわき市において、官民連携協議会に参加している企業で協働できることがあるのかを検討した。

交流人口の拡大に向けた取組み [地域未来投資促進法に係る地域創生推進交付金事業]



■ 地域未来投資促進法基本計画に位置付け、地方創生推進交付金を活用して事業展開

○事業実施期間：H30～32年度

○H30年度予算：107,840千円

■ 官民が連携し、スポーツによる人・まちづくりを推進

○H29年10月に、69団体の参画により「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」が発足

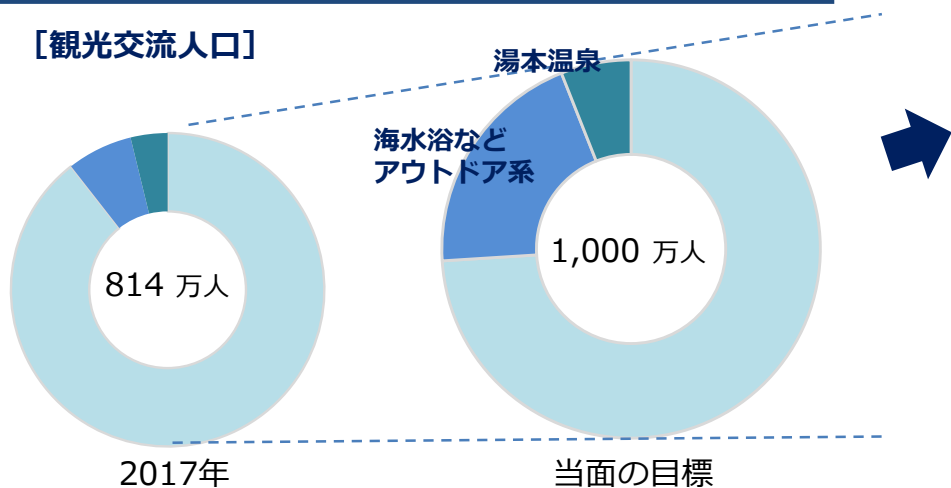
スポーツコミッションの充実強化

■ スポーツツーリズムを促進するため、いわき市スポーツコミッションを設置し、官民連携でスポーツ大会、合宿を誘致。

○スポーツ大会補助 15～30万円/1大会

○スポーツ合宿補助 10～100万円/1団体

さらなる交流人口拡大に向けて



海水浴などアウトドア系と湯本温泉の震災前までの回復により、約1,000万人まで観光交流人口が回復

今後、

■ アウトドア系の観光交流人口の回復

■ 湯本温泉の再興

に向けた施策を重点的に展開

いわき市の現状報告を基に、各委員が今後協働する可能性の高い提案を行った。

●イベント型提案

- ・ジャパンエコトラックの提案【モンベル】
- ・ONSENガストロノミーウォーキング【ANA】
- ・サイクルイベントの計画（ツールドニッポンへの参画）【RSJ】
- ・JRトマトランドいわきファームでのトマト生産を通じた、イベント参加【JR東日本】
- ・地域資源を活用したサステナブルなイベントを計画。フラダンス×ヘルスツーリズムのような、象徴的なイベントの企画【JTB】
- ・都内ホテルを利用した、物産展やイベントを企画【プリンスホテル】

●インフラ型提案

- ・鉄道の駅や道の駅、観光拠点でスポーツバイク等を配備し、アウトドアスポーツの拠点、地域住民の健康促進として利用してもらう【モンベル】
- ・シーカヤック、フィッシングカヤックをいわきの海で楽しむことができるよう、レンタル事業を起こし、カヤックガイドの育成を行う【モンベル】
- ・スポーツフィールドのストリートビューの発信【Google】
- ・Googleマイビジネス登録の量と質の整備【Google】
- ・いわき経済同友会のスポーツツーリズムへの関心が高く、スポーツ競技の合宿誘致。産官学の連携を深める【JTB】
- ・いわき健康ヘルスセンター施設を拠点とした健康街づくりを推進し、スポーツツーリズムと連動した提案【JTB】
- ・グランピングやアドベンチャーツーリズム等のアクティビティコンテンツの整備を行い、Asoview等でのツアー造成【JTB】
- ・サイクリスト誘客のための地域資源調査、サイクリストマーケティング調査、海外サイクリストのモニターツアーを実施し、サイクリスト誘客の戦略策定のサポートを実施【RSJ】
- ・サイクリングガイドツアーの企画、スマホアプリを活用したサイクリングコースの設定【RSJ】
- ・全国の自治体で構成する「全国サイクルツーリズム連携推進協議会」に加入し、情報交換の促進【RSJ】

●プロモーション型提案

- ・デジタルマーケティング基盤を提供し、コンサルティングを行う【Google】
 - ・いわきのスポーツフィールドの魅力を体現する動画、Webサイトの作成【Google】
 - ・成果報酬型Web広告を作成し、地域や性・年代・興味関心層をターゲティングし、Web、スマートフォン中心に展開していく【Google】
- ⇒上記三点は、次回に向けた効果測定をし、持続可能なものとする。
- ・日常的なサイクリストの誘客を実現する考えの元、いわき市川前地域のプロモーションとしてのイベントの開催について、計画するも頓挫【RSJ】

2019年度以降のスポーツ庁の取組

スポーツ庁より、2019年度以降の取組について発表があった。協議会の議論を踏まえ、スポーツツーリズムの推進に向けたアクションプログラム2019として、年度末までに取りまとめを行う。

2019年度のスポーツ庁の取組について

資料 4



第2期スポーツ基本計画に掲げられた具体的な施策

- 地域スポーツコミッションの拡大 → スポーツコミッションの活動を支援（継続）
- スポーツツーリズムの推進 → 官民連携プロモーションを実施（継続）、地域毎に**セミナー等**を開催（新規）
- スポーツ×文化×観光の取組奨励 → 「スポーツ文化ツーリズムアワード」を実施、シンポジウムを開催（継続）
- スポーツによる地域の一体感の醸成 → 地域毎に**セミナー等**を開催（新規）、**モデル事業**を企画・立案（新規）
- スポーツ関連組織の収益モデルの調査と普及 → **モデル事業**を企画・立案（新規）

武道・アウトドアスポーツをテーマとする「スポーツツーリズムセミナー」を開催

・2017年度のマーケティング結果や2018年度のプロモーション結果等のエビデンスに基づき、国が地域や関係者に対し、**スポーツツーリズムに取り組む意義を発信**するとともに、**地域と企業等のマッチング機会**を設ける。

・スポーツ庁が、**武道ツーリズムセミナー（東京）を開催**するとともに、**各地域に出向き、セミナーや相談会を実施**する。スポーツツーリズムに取り組む地域の一体感の醸成やコンテンツ造成を促す。

・セミナーに合わせて**協議会参加企業等とのコラボイベントを検討**する。

【開催箇所】東京の他、全国複数箇所を予定

【内容】実践者からの報告、先進事例や有用情報等の共有等

【対象者】地方公共団体、地域スポーツコミッション、武道関係者、民間事業者、マスコミ関係者 等



地域・関係者の様々な課題を解決する「スポーツツーリズムモデル事業」を検討

・スポーツテーマ毎に全国ネットワーク団体から課題をヒアリングし、地域・関係者が抱える課題を掘り起こし、その解決に向けて**モデル地域を選定し、複数年の継続した事業を実施**する。

・モデル地域の取組により得られた知見・成果は、**スポーツツーリズムに取り組む際のポイントとして整理し、手引き等**にして、**他の地域の取組の参考に供**する。

・**予算の確保が課題**。（財務省、観光庁等と協議）

【テーマ例】サイクリング、ゴルフ、空手 等

【内容例】他地域・関係者との連携体制の構築、インバウンド受入体制の構築、効果的なプロモーション、ファミトリップやマーケティング調査の実施、一般参加型武道イベント等の開催 等



本事業は団体が実施するが、事業終了後も引き続き活動を継続する団体を選定する。

スポーツツーリズムの需要拡大に向けたモデル事業（地域の課題解決）

現状と課題

- スポーツツーリズムの取組は各地に広がっており、スポーツ庁が基本計画に掲げるKPIも概ね順調に推移している。
- 一方で、ビジネスモデルが確立されておらず、効果的な事業展開が行われていない地域や事業者が散見される。共通の課題を抱えていることも多い。
- **スポーツ庁と全国ネットワーク団体が連携して地域・関係者の課題を掘り起こし、各地域でモデル事業を行い、その成果をまとめて横展開を図る。**

取組の概要

・モデル事業の計画・実施（①～③）

- ・スポーツ庁が決定したテーマ毎に、全国ネットワーク団体（以下「団体」）にヒアリングを実施。
- ・団体から提起された課題に基づき、団体と連携してモデル地域を選定。
- ・団体は、選定された地域の課題解決に向けて、複数年にわたってモデル事業を実施。

テーマ例	想定される課題例（全国ネットワークからヒアリング）
サイクリング	多言語標識等の不足、ソフト事業者の不足、ガイド人材の不足、安全管理 等
ゴルフ	インバウンド受入体制の構築、新規ニーズ(若者)の掘り起こし 等
空手	体験型コンテンツの充実、他の地域への展開 等
武道全般	複数武道を組み合わせた一般参加型のイベント等の開催 等

・事業成果の評価・検証、フィードバック（④）

・対応策の検討、更なる展開の可能性を検討（⑤）

スポーツ庁が、各モデル事業の成果を取りまとめ、地域・関係者が抱える課題解決に向けた「**スポーツツーリズム推進のための手引き**」を作成・公表。

国、地方自治体、事業者等が**ポイントを共有**し、より効果的な事業展開を図ることで、「スポーツによる地域活性化」の動きを加速化させる。

- ① 団体にヒアリングを実施
- ② 団体と連携してモデル地域を選定
- ⑤ 対応策の検討、更なる展開の可能性を検討

全国ネットワーク団体（事業実施主体）

